

定例富谷塾



11月12日、第7回定例富谷塾がTOMI+にて開催されました。今回ゲストとして、来てくださったのは、利府町を中心に活動するまちづくりの任意団体「リフ超学校」の代表ささきしょうたさん。リフ超学校で発行している「リフ超だより」は、手書きでありのままを紙媒体で伝えることをテーマとしているそう。それに則り、参加した塾生がそれぞれ、ミニ新聞を作りました。後半は、それぞれの新聞を見せ合いながら、交流を行いました。塾生の皆さんが作成したミニ新聞は、TOMI+に掲示中ですので、TOMI+に来館の際には是非ご覧ください。

だれでも凸凹文化祭



11月3日、居場所妄想会主催「だれでも凸凹文化祭」がTOMI+にて開催されました。この企画は「富谷塾」の居場所妄想会のメンバーが中心になって発案し進めたものです。コンセプトは約4ヶ月の準備期間で企画立案、出店者募集、運営企画、広告などをを行い、手作り感のある「大人の文化祭」をイメージしたイベントになりました。今後事業化を目指す富谷塾生が飲食、物販、サービス、活動紹介・発表など様々な形で参加し、約30の企画が出揃いました。当日は快晴で気温も平年以上となり、400人以上の方が来場していただきました。

インターンの活動紹介

インターン生主催で妄想ミーティングを2回開催しました。10月19日には「Z世代から教わるSNSの使い方」を開催しました。SNSの投稿の仕方や機能について、質問を受け付けました。11月16日には「インターン生と交流しよう！」と題し、大学生に聞いてみたいことや協力して欲しい事を受け付けました。

先月号で紹介した、オススメの本紹介コーナー、塾生と交流するホワイトボードも引き続き設置しているので、こちらも是非ご覧ください。



ものづくり×地域コミュニティ 公園で巨大ロボを作る

釘宮慎太郎さん



今月は、富谷塾に9月に入塾した5期生であり、「公園で気軽にできるものづくり」をテーマに掲げる釘宮慎太郎さんをご紹介します。

やってきたのは…ドラえもん！？

「ロボットの原点はドラえもんである」と仰る釘宮さん。そんな釘宮さんは、今回ドラえもんのコスプレをして、インタビューに応じていただきました。

小学生の『ものづくり』に感動

以前は愛知県豊橋市に住み、派遣のエンジニアとして働いていました。その際に、浜松市で行われていた小学生向けのものづくりワークショップに参加し、小学生が熱心に活動している姿を見て、「子どもたちと一緒に『ものづくり』ができれば」という想いが芽生えたそうです。その後、奥さんの実家がある泉区に引っ越してきた際、子どもたちが楽しくものづくりできる場所があまりないと思い、宮城でも浜松市でのワークショップのようなイベントを開催したいと感じたそうです。

気軽にできる『ものづくり』を目指して

豊橋市在住時代に浜松市でのワークショップで感じた、小学生の熱心さから、小学生でも気軽にものづくりができる場所として、公園に着目して、会社のサークル的なノリで2年前に公園ラボを立ち上げました。釘宮さんを含めた3人で活動して、2台ロボットを製作するもイマイチ認知されず、コミュニティが広がらなかったそうです。富谷塾での活動を通して公園ラボのコミュニティを広げられたらと思っているそうです。

LEDと3Dプリンターで作られた作品⇨

富谷塾への想いや期待

周囲に富谷塾生が多くおり、「富谷塾」の存在は知っていました。上桜木にある間借り営業専門のカフェ「こん・とん」にお昼ご飯を食べに行った際に出会った方々が富谷塾生であったため、あらためて富谷塾について聞いたところ、当時感じていた「コミュニティを広げたい」という想いを実現できそうと思い、入塾しました。入塾からの日は浅いですが、定例富谷塾と妄想ミーティングに参加し、コミュニティの広がりを実感しています。12月に開催予定の「Start up weekend in 富谷」にも参加します。

ものづくりのコミュニティを広げたい

「富谷塾で広げたコミュニティから、ものづくりに興味がある方々、主に小学生たちを集めて、大きな1台のロボットを制作したい」と語る釘宮さん。実際に年度末頃にこのようなイベントを開催するために準備を行っているそうです。興味がある方は是非お声がけください！とのこと。その先には、「富谷市の子どもたちがつくったロボット」として2023年9月に東京で開催される「メーカーフェア」に展示し、例年2万人程度いる来場者に富谷市をアピールするという大きな目標を掲げていただきました。

